

- 夏場の栽培に中国野菜 -

平成18年6月1日
神奈川県農業共済組合

一度は作ってみたい中国野菜。暑気対策にミネラル補給。夏場でも作りやすい。

チンゲンサイの栽培ポイント

- ・ 夏まき栽培：高温期は、生育が抑制されるので、寒冷紗かタフベルなどの不織布でトンネル被覆し、遮光と虫害防除を行います。
- ・ 秋まき栽培：秋の前半の播種と後半とでは、温度条件が異なり、生育日数が大きく異なります。10月中旬にまく場合は生育後半にトンネル被覆します。
- ・ 堆肥は完熟堆肥を1 aあたり200kg施用します。苦土石灰10kgで酸性矯正します。
- ・ 施肥量は1 aあたり成分で窒素、リン酸、加里とも1~1.5kg程度とします。
- ・ ベッド巾60~100cmの高さ10cm程度の播種床を作り、条間15cm株間18cmの間隔で1カ所4~5粒播種します。
- ・ 種子がかくれる程度に土を薄くかけ、軽く鎮圧します。
- ・ 間引きは、本葉2~3枚迄に2本にし、本葉4~5枚で1本立ちとします。
- ・ 順調な生育を促すため、播種時と乾燥時に灌水します。
- ・ 草丈が15cm程度か、株の大きさが100g程度になったら収穫します。

チンゲンサイ



作ってみたい中国野菜

香りと風味の野菜

キンサイ（6月・9月蒔きが適期）



- ・ 120cmの平床を作り10cmの高さに盛り上げます。
- ・ 本葉5枚に育った苗を条間20cm株間15cmに定植。
- ・ 収穫は定植後40~50日、草丈20~30cmで収穫。
- ・ 生育早く、暑さにも強いので作りやすいです。
- ・ 香気強く、炒め物やスープに利用。

株取り収穫野菜

カイラン（4~8月蒔きが適期）



- ・ 本葉2~3枚のころ畦幅30cm、株間15cm間隔に苗を植え十分に灌水をします。
- ・ 播種後35~40日で茎が20cmぐらいに伸び、先に蕾がついた頃が収穫の適期です。
- ・ 開花直前の茎葉を利用しサラダ、炒め物に調理。

中国ダイコン
(8月下旬～9月中旬蒔きが適期)



- ・畦幅 50cm を取り 5cm 程度の溝を鍬で切る。株間 25cm に 1ヶ所 4～5 粒ずつ播種します。
- ・間引きは本葉 2 枚で 3 本に、本葉 5 枚で 1 本立ちにします。
- ・土寄せは首まで土を寄せると色が悪くなるので、土寄せは軽く行います。
- ・肉色は鮮桃紅色、緑色帯びる。ツマやおろし、サラダに利用。

摘み取りながら収穫

サイシン
(5～9月蒔きが適期)



- ・幅 120cm、高さ 10cm の平床を作り、条間 15cm に深さ 5mm 程度の条をつけ、たねを薄く播種します
- ・間引きは、本葉 2 枚で 1 回目を行い株間 5cm とし、本葉 5 枚で 2 回目を行い株間を 10cm にして育てます。
- ・草丈 30cm の時に芯を切ってわき芽を出させる。茎葉が伸び花が 1～2 花咲く頃が収穫適期です。油炒め、煮物に利用。

エンサイ
(5～8月蒔きが適期)



- ・畝幅 60cm に株間 20cm をとり 1 カ所に 2～3 粒ずつ播種します。
- ・間引きはせずに育てるか、本葉 4～5 枚時に定植することも出来ます。
- ・収穫は 20cm ぐらいに伸びた時に、地際の 5～6 節を残して摘み取ると、残した節からわき芽が伸び出してまた、収穫が出来ます。おひたし、ゴマあえや炒め物によい。

コウサイタイ
(9月蒔き 2～3月収穫))



- ・畝幅 60cm に株間 30cm の間隔で 1 カ所 5～6 粒を播種。
- ・本葉 2 枚の時に 3 本立ちにし、本葉 5 枚で 1 本立ちにします。この時の間引き苗を定植してもよいです。
- ・春先にとぅが立ち、花が 1～2 花咲いたときが収穫期です。
- ・油炒め、ぬか漬けや塩漬けにしてもよい。

トウミョウ
(10月下旬～11月上旬蒔きが適期)



- ・畝幅は 60cm とし 30cm の株間に 1 カ所 2～3 粒を播種。
- ・間引きはせず、そのまま育てます。普通のエンドウのように、蔓が長く伸びないので支柱は必要ないです。
- ・草丈が 20cm 前後になったら蔓先の柔らかい部分を 5～6cm 摘み取ります。また次の蔓がでるので収穫出来ます。
- ・炒め物やスープ、あんかけなどの色合いによい。